

令和2(2020)年「正覚寺報」1月号

ご案内

お聴聞は如来様のお育てに遇う大切な営みです。皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

修正会(元旦会) 元旦(水)午前7時

御正忌お通夜 1月15日(水)20時~

仏婦新年会 1月16日(木)13時~

一月は年に一度のお楽しみ会を兼ねます。

仏教壮年会総会 1月19日(日)19時~

役員会 1月19日(日)19時半~

初講を迎えるに当って原案をご審議戴きます。

初講 1月26日(日)午前10時~

新年のご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年、肉親とお別れ戴いた御門徒様にはお寂しいお正月をお迎えのことと存じます。ご親族にはどうぞお大事になさって下さいませ。

年末、もうこれでないだろうと思っておりました矢先、12月22日(日)には、衣川の円成寺の前住様がお浄土にお還りになりました。同師は、おだやかなお人柄で、とりわけ若い年代層には、過ちを赦して導くふところの奥深さをお持ちでいらっしやいました。

「円成寺様の総代様は一番お付き合いがし易い」とは、滋賀組の組長がふと言葉の端々に漏らす印象でありました。組の中では、門徒推進員が一番数多く育っていらっしやるのは同寺様でありました。

お葬式当日、葬儀式で総代様の代表者が、[弔辞]を読み上げられ、終ってアドリブで「ご院さん。ほんのしばらくのお別れです。私らもそう遠くないうちに寄せて戴きます。そのと

きには、また懐かしくお会いさせて戴きましよう」という風な趣旨の御言葉をお送り戴いたことでありました。懐深い総代様方が育っていらっしやる風情そのものが前住様のお人柄であったことかとしみじみと振り返らせて戴いていることであります。

正覚寺では、来年の目標として、連続研修会の受講生を募ることが毎年心配事ですが、平成二年度の実践運動の重点目標を見直す課程で、昨年度までになかった目標の一つとして

「**門徒推進員の誕生**」に取り組みます」

を重点目標として掲げさせて戴きました。

皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

お法(みの)りの弱点を克服するには

浄土真宗では、ともすれば、お念仏を称えるとはそれは自力だと云われかねません。

これは、第二十願の「至心回向する」という御文の頂戴しぶりにありますので、改めて願文を振り返りますと「たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、わが名号を聞きて、念をわが国に係け、もろもろの徳本を植えて、至心回向してわが国に生ぜん」と欲せん、果遂せずは、正覚を取らじ。」とあります。

よくみれば、「わが名号を聞きて」は聞名であり、「もろもろの徳本を植える」はお念仏ですから、聞名とお念仏は既に賜っているのであり、「果遂せずは」で第十八願に繋がっているのですから、賜ったお念仏をお称えすれば、直ちに働いて下さる大行で賜るお喚び声をお聞かせに与るプロセスを大事にしてゆけば克服することかと窺わせて戴くことであります。合掌。